

彼女の妹といちゃラブ同棲生活1週間
～子作り花嫁修業「お兄さんいっぱいかわいがってくださいね」～

● 1 日目

🔊 インターホンの音

🔊 主人公が扉に近づく足音

🔊 鍵を開けて扉を開ける音

立ち位置 正面

まゆ 「あ、お兄さん……その、今日から一週間、お世話になりました」

🔊 主人公とヒロインの足音5秒ほど（床はフローリング）

立ち位置 左前

まゆ 「ここがお兄さんが暮らしてる家なんですね」

🔊 荷物をおろしながら

立ち位置 正面

まゆ 「よいしょ……ふう、外が暑かったので、クーラーの効いた室内が涼しいです」

まゆ 「そういえば、お兄さん。お姉ちゃんは……」

まゆ 「あ、お仕事なんですね。今日、行くからって事前に伝えてたのに。相変わらずせわしないんだから……」

まゆ 「じゃあ、もしかして今日はお兄さんと二人きりなんですか……?」

立ち位置 正面 やや近く

まゆ 「なら、お世話になるお礼に私がお姉ちゃんの代わりに料理や家事をしてあげますね」

まゆ 「ふふ。私、最近、家で花嫁修業してるんで、きっとお姉ちゃんより上手にできますよ?」

まゆ 「だから……もしお姉ちゃんより上手くできたら、ほめてくださいね? お兄さん」

まゆ 「ほら、お兄さん。さっそく掃除するんで、お部屋を見せてもらってもいいですか？」

まゆ 「……ダメです。私はお姉ちゃんの妹として、お兄さんがしっかりしてるかチェックする必要があるんですから」

まゆ 「……仕方ないですね。じゃあ5分間だけ待ちます。お兄さんも男の人ですもんね。見られたくないものとかありますよね」

まゆ 「そういうのじゃなくて仕事道具？ ふふ。お兄さん。そういうのって何のことです？」

まゆ 「私はただ、見られたくないものって言っただけです。お兄さんは何を想像してたんですかね？ ふふ、ほら、早くしないと5分経っちゃいますよ？」

SE 扉を開ける音

SE 足音 2秒ほど

立ち位置 正面 やや遠く

まゆ 「お邪魔しまーす……。おや、以外と片付いてますね」

まゆ 「おや、お兄さん、汗かいちゃってますね。そんなに慌ててたんですか？」

立ち位置 正面

まゆ 「ほら、お兄さんはベッドに座って休んでください。お掃除しちやいますから」

まゆ 「この格好ですか？ 汚れちゃってもいい服に着替えてきました」

まゆ 「……見えちゃいそう、ですか？ ……お兄さんなら、べつに見てもいいですよ？」

SE ハタキの音 5秒ほど

立ち位置 やや右

「え、お兄さんも手伝ってくれるんですか？ やっぱりお兄さんは優しいですね。」

「じゃあ、私が届かない高い場所の掃除をお願いしてもいいですか？」

SE 掃除機をかける音 5秒ほど

立ち位置 正面

「ふう……どうですか？ お兄さん。綺麗になったと思うんですけど」

「ほんとですか？ よかったです」

「……でも、結局、お兄さんが隠したものは見つけれませんでしたね」

「お兄さんがどんな趣味なのか知りたかったです」

「え、どうして、気になるのかって……？ ふふ。お兄さんも意地悪なこと聞きますね？」

立ち位置 正面 やや近く

※少しだけねっとりとした感じで。

「……じゃあ、お兄さん。改めて今日から一週間、よろしくお願いしますね？」

まゆ 「……いっぱい、可愛がってくださいね？」

SE 扉を開ける音（脱衣所の）

※扉越しに聞こえる感じで

SE シャワーの音

※浴室にるので声が反響している感じで

立ち位置 正面 やや遠く

「ん……。あっ……んん」

「はあ、はあ……んっ。んあっ……」

「こんなこと……ほんと駄目なのに」

「い、いま、同じ家にお兄さんがいるのに……んんっ」

「わ、わたし、お兄さんとお姉ちゃんがくらす家で、オナニーして、いっちゃう……」

「はあ……んんっ。で、でも、き、きもち、いい……」

SS 浴室の扉を開ける音（可能ならゆっくりと）

※扉越しに聞こえる感じはここまで

「んっ……も、もう、こんなに乳首、固くなっちゃってる」

「はあ、ふう……ふあっ、ああっ」

「ボディソープ……ぬるぬるしてる、精液もこういう感じなのかな……？」

「こ、声……もっと、抑えなきゃ。お、お兄さんに聞こえちゃう」

「……んあ。お、お兄さん、おにいさあん……」

「……んっく。あああっ……く、くる。きちやう」

※指を噛みながら声を抑える感じで

「んんんっ……ああっ。ふう、ふう」

「ふー、ん……っん」

「んんー……ああっ、いく、イっちゃう」

「お兄さん……お兄っんあぁ」

「
ん
ん
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
っ
っ
!!
!!」?

まゆ

「ん……んっあ、はあ、はあ……」

まゆ

「ん……」

「……い、イっちゃいました……」

「……ふう。また汗かいちゃった……もう一回、洗おうかな……」

「……………えっ。お、お兄さん？」

「……そ、その、いつからそこに？」

「もしかして……私の、えっと、見てました？」

「……ダメじゃないですか。勝手に入ってきちゃ」

「……お風呂、借りますって私がちゃんと言ってなかったのも悪いですけど」

浴室の扉がガタッという音

※扉の隙間から脱衣所の方に顔だけ出している

※声の反響ここまで

立ち位置 正面

「……私はまだもう少しお風呂に浸かる予定ですけど、どうします？ お兄さんも一緒に入ります？」

「ふふ。私は気にしないのに……。お兄さんは真面目なんです
ね」

まゆ 「じゃあ、もう少しだけ待っててくださいね……今度は、覗い
ちやダメですよ？」

🔊 扉を開ける音（リビング）

立ち位置 右後ろ ちょっと遠く

まゆ 「……お兄さん、まだ起きてたんですね」

🔊 足音（近づいてくる音） 2秒

立ち位置 右後ろ

まゆ 「……はい。お姉ちゃんは、疲れてたんでしょうね。布団に
入ったら、すぐに寝ちゃいました」

まゆ 「お兄さんは、お仕事ですか……？」

まゆ 「……もし暇だったら、少しだけお話しませんか？ 私、まだ
ちよっと眠れそうになくて」

まゆ 「お隣、失礼しますね」

🔊 ソファに座る音

立ち位置 右前 近め

まゆ 「……そういえば、お兄さん。夕食はどうでしたか？ 感想を
聞いてなかったですよね」

まゆ 「ほんとですか？ よかったです。……お兄さんの好きなもの
が分からなかったので、お口に合うかどうか心配だったんで
す」

まゆ 「……明日は、お兄さんの好きなものを作ってあげますね？
だから、お兄さんのこともっと教えてください」

立ち位置 右 耳元

※少し囁くように

まゆ 「……（すんすん）、お兄さん、良い匂いします。私、好きです、この匂い……」

まゆ 「シャンプーともボディークリームとも違う、不思議な香りです……」

※囁きここまで

立ち位置 右前 近め

まゆ 「……そういえば、お兄さんに見られちゃったんですね。私がお風呂に入っていると」

まゆ 「私の裸どうでしたか……？ 興奮しました？」

まゆ 「あの時、お兄さん……勃起してましたよね？」

※座っている主人公の股間に手を当てている

まゆ 「この部分を膨らませながら……私のオナニーを覗いてましたよね？」

まゆ 「あの後、どうしたんです……？ もしかして、一人でシコシコしちゃったんですか？」

まゆ 「……ふふ。少し、大きくなってきましたよ？ お兄さんのここ」

※囁くように

立ち位置 右 耳元

まゆ 「私の裸を思い出しちゃったんですか……？」

まゆ 「私の胸や、濡れちゃったアソコを想像して、大きくしちゃったんですね？」

まゆ 「……もし、お兄さんさえよければですけど、私が手伝ってあげましょうか？」

まゆ 「……大丈夫ですよ。お姉ちゃんは寝てますから……ね？」

※囁き「こ」まで

立ち位置 右前 近く

まゆ 「でも……お兄さんのここは苦しそうです。ほら、楽にしてほしくてビクビクしちゃってます」

まゆ 「……いま、出してあげますからね？」

※ 主人公のズボン（スウェットとパンツ）を下す音

まゆ 「わ……こんなに大きくなっちゃうんですね」

まゆ 「鉄みたいに硬くて熱い……お兄さん、痛くないですか？」

まゆ 「……私の手の中でどくんどくん脈うってます」

まゆ 「つつん……ふふ、ぴくぴくしてて、なんだか可愛いですね」

まゆ 「……お兄さん、もしかして、期待しちゃいました？」

まゆ 「そんな切なそうな顔しないでください……」

まゆ 「ほら、いいですよ？ お兄さんの期待通り、気持ちよくしてあげますからね……」

まゆ 「ゆっくくり、ゆっくくり動かしていきますね」

立ち位置 右 耳元

※囁くように

まゆ 「こっやって、しゅこ、しゅこ」

まゆ 「男の人ってこうしたら気持ちいいんですよね？」

※囁き「こ」まで

立ち位置 右 近く

「もっと、早くしてほしいですか？ 焦っちゃ駄目ですよ？
ほら、じっくり……」

「お兄さん、気持ちよさそうな顔してます。ほら、もう先っぽ
からおつゆが溢れてきてますよ？」

「……でも、まだ駄目です」

「もっともっと、気持ちよくしてあげますから、ちゃんと我慢
してくださいね？」

「服……脱がせちゃいますね？」

※ソファがきしむ音

※主人公のＴシャツを脱がす音

※主人公の胸に半身当てている感じ

立ち位置 正面やや右 顔の下から 近く

「お兄さんの胸板、広いです……」

「ほら、耳を当てると、お兄さんがドキドキしてるの分かっ
ちゃいます」

「……ね、お兄さん。知ってますか？ 男性も乳首って感じる
らしいですよ？」

「ほら、弄ってあげますね……？」

「……私がオナニーする時は、こうやってくりくりしたり、つ
ねったりして……」

「くりくりくりー……どうですか？ お兄さん……気持ちいい
ですか？」

「ふふ……」

「もっとしてほしそうな顔、してますよ？ お兄さん」

「じゃあ、今度は……れろ」

「一人じゃできないこと、してあげますね……」

※乳首なめ

「ちゆる、んっ……れろ。……じゆるる」

「ちゅうう。んっ……れろお」

「……ねえ、お兄さん。乳首、固くなってきてますよ？」

「上も下も勃起しちゃいましたね？」

「……ふふ。ごめんなさい。いつまでも生殺しじゃ辛いですよ
ね？」

「もう、こんなに我慢汁が溢れちゃってます」

「ほら、上も下も一緒に気持ちよくしてあげますから、ね？」

「れろお……じゆるる。んん」

「……んっ。ちゆるる、ぷはっ」

「はあ、はあ。お兄さん、いつでも出しているんですよ？」

「私の手でびゆるるーって白いの出してください」

SS 射精音（外だし）

「んっ。……いっぱい出ましたね。私の手、お兄さんの熱いの
でベタベタにされちゃいました」

「……んっ（ぺろっ）。これがお兄さんの味なんですネ」

まゆ

「お兄さんの匂い……やっぱり私、この匂い好きです」

まゆ

「……どうですか？ お兄さんは気持ちよかったですか？」

まゆ

「なら、よかったです」

立ち位置 右 耳元

※囁くように

まゆ

「……お兄さんさえよかったら、またしてあげてもいいですよ？」

※囁きここまで

SE ソファから立ち上がる音

立ち位置 右前

まゆ

「……ふふ。じゃあ、もう遅い時間ですし、私もそろそろ眠りますね」

まゆ

「はい。おやすみなさい。お兄さん」

● 2日目

SE 扉をノックする音

SE 扉を開ける音（主人公の部屋）

立ち位置 後ろ 少し遠く

まゆ

「失礼します。お兄さん。そろそろ休憩しませんか？」

まゆ

「お茶、入れたんですけど、一緒にどうですか？」

SE ヒロイン足音2秒ほど

立ち位置 左後ろ

まゆ

「キッチンに紅茶があったので紅茶にしたんですけど、お兄さん大丈夫でしたか？」

まゆ

「よかった。じゃあ、一緒に飲みましょう」

SE 椅子を引いて座る音（二人分）

※ダイニングに移動して、テーブルを挟んで向かい合ってる

「お兄さんが家に居てくれてよかったです」

「私一人だと、こっちの地理にも疎いですし、どうすればいいかわかりませんから」

「ええ、お姉ちゃんもお兄さんも、学生の私と違って夏休みがないのは分かってます」

「けど、せっかく遊びにきたんですから、少しくらい構って欲しいんです」

「……ね、お兄さん。今から一緒にどこかへ遊びに行きませんか？」

「駄目ですか……。えっ、明々後日なら大丈夫？　ほんとですか？　私、楽しみにしてますからね？　嘔吐いたらダメですよ？」

「じゃあ、指切りです」

「ん……お兄さんの指、男の人って感じがしていいですね」

「ゆーびきーりげーんまーん。うーそっーいたーら、はーりせーんぼーん、のーますっ。ゆーびきった」

「ふふ。ちゃんと針千本用意しますからね？　ところで、針千本の針って何の針なんですかね？　待ち針とかでも大丈夫なんですか？」

「ふう……ちょっとはしゃいだせいか、少し暑くなってきたやいました。ホットじゃなくて、アイスティーにすればよかったかもです」

まゆ

「……お兄さんも、うっすら汗かいちゃってます」

まゆ

「ほら、額の部分……あ、待って。私が拭いてあげますね……」

※ 椅子から立ち上がる音

※ 立ち上がってテーブル越しにちょっと乗り出すようにして

まゆ

「……どうしました？ 少し赤くなってますよ？」

まゆ

「……見えちゃいそう、ですか？ ……そういえば私、今日はブラ付けてなかったですね」

まゆ

「……触ってみます？ お姉ちゃんよりはちっちゃいかもしれませんが、これでもまだまだ成長途中なんですよ？」

※ 近づいてくる足音2秒くらい

立ち位置 左

まゆ

「ほら……んっ。お兄さんの大きな手のひらにすっぽり収まっちゃいました」

まゆ

「どうですか……？ やわらかいですか？」

まゆ

「んっ……ええ。お兄さんの好きにしてもいいんですよ？」

まゆ

「……お兄さんの手、んあっ、き、気持ちいいです」

まゆ

「んあっ……ああん。お兄さん、上手です……」

まゆ

「はあはあ……お兄さんも、興奮してるんですよ？」

まゆ

「ほら、お兄さんのここ……もうこんなになってます」

まゆ

「やっぱり、お兄さんの大きい……」

立ち位置 左 耳元

「ね、お兄さん。このまま昨日の続き、しちやいましょうか？」

※ソファまで移動してヒロインが押し倒す（騎乗位）

※ 衣擦れ音（ズボン等を脱いで投げ捨てる音）

※ ソファがきしむ音

立ち位置 正面 顔の下

「今日は私の……ここで気持ちよくしてあげます」

「ほら、見えますか……私のここ、もう濡れちゃってます」

「お兄さんに胸を触らただけでこうなっちゃったんですよ？」

「……ここにお兄さんのを入れたら、きっと気持ちいいですよ？」

「一緒に、気持ちよくなりましょう？ お兄さん」

「んん……先っぽが擦れて……。お兄さんの硬いの分かりますよ」

「お兄さんも分かりますよね……？ 私のここ、すごく濡れちゃってます……」

※ 挿入する音（次のセリフと同時）

「んっ……ふうっ。んんんっ」

「はあ、はあ……ほら、は、入っちゃいましたよ。お兄さん」

「私のお腹の中に、お兄さんのが入ってるの分かります」

「ほら、お兄さんの……おへその下まで届いて、今もビクッ、ビクッって動いてます」

まゆ

「ん……ふう。は、はい。だ、大丈夫ですよ？」

まゆ

「……やっぱり、お兄さんは優しいですね」

まゆ

「……好きです。お兄さん」

まゆ

「だから、私で……気持ちよくなってください」

SE 抽送音 (二二から)

まゆ

「んっ、はあっ……ああっ」

まゆ

「ああっ。んっ。ふああっ」

まゆ

「お、お兄さんは気持ちいいですか？」

まゆ

「……昨日みたいに、こっちの方もしてあげますね？」

※騎乗位しながら乳首なめ

立ち位置 顔の下 近く

まゆ

「んっ……れろお。じゅるる」

まゆ

「もしかして、ちょっと期待してました？ 舐める前からお兄さんの乳首、勃起ちゃってましたよ？」

まゆ

「そんなによかったんですか？ なら、期待通り、もっともっ
としてあげますね」

まゆ

「んちゅ……ちゅば、ちゅば。ちゅうう」

まゆ

「んれろ……。んっ。ああっ。わ、私も気持ちよくなって、き
ちやいました」

まゆ

「ん。お、お兄さんも、そろそろイっちゃいそうですか？」

「いいですよ。い、いっぱい、お兄さんの、出してくださいっ」

「んっ。あああっ。わ、わたし、も、もうっ」

SE 抽送音（ここまで）

SE 射精音（外だし）次のセリフと同時に

「んんんんんっっっ！？」

「っ……んんっ……ん」

「はあ、はあ……あ、熱いのが、出てます。お兄さんの濃くてどろっとしたのかけられちゃってます」

「んっ……き、気持ちよかったです。お兄さん」

「お兄さんも気持ちよかったですか？ よかったです」

SE 性器を抜く音

立ち位置 正面 顔の下 少し離れた位置

「……んっ。お兄さんの白いので服が汚れちゃいましたね……」

「お兄さんが外に出すからですよ……？」

「……これは後で、洗濯しないといけませんね」

「お兄さんも、汗だくなっちゃってます」

「……じゃあ、今度こそ、一緒にお風呂に入っちゃいます？」

「ふふ。お兄さんの背中、洗ってあげますね？」

「代わりに、私の背中、お兄さんが洗ってくださいね？」

まゆ 「……お兄さん、いまエッチな顔、しましたよ？」

まゆ 「お兄さんが望むなら、お風呂でつづき……してもいいんですからね？」

まゆ 「じゃあ、いきましようか？ お兄さん」

※浴室内なので声が反響するように

SS 浴室の扉を開く音

立ち位置 正面

まゆ 「ほら、お兄さん、入っていいですよ？」

まゆ 「ふふ、お兄さん、もう隠せないくらい勃起しちゃってますね」

まゆ 「そんなにつづきがしたかったですか？」

まゆ 「いいですよ……ほら、ここに座ってください」

SS 桶でお湯をかける音

立ち位置 後ろ 近く

まゆ 「まずは背中を洗ってあげますね……」

SS ボディソープを出して泡立てる音

まゆ 「お兄さんの背中、広くて大きい……」

※後ろから抱き着く形になっている

まゆ 「んっ……どうしたんですか？ お兄さん？ ビクッてしましたよ？」

立ち位置 右後ろ 耳元

※囁くように

まゆ 「ほんとはお兄さんも少し期待してたんじゃないですか？ お風呂に入ってから私の胸、何度も見てましたよね？」

まゆ 「ほら、分かりますか？ さっきお兄さんが揉んだので、まだ乳首がたっちゃってるんですよ？」

まゆ 「こうやって、お兄さんの背中に擦りつけてると……んっ。私も少し、気持ちよくなってきましたよ」

※囁き「こまで」

まゆ 「お兄さんも、気持ちよくなりたいですよ？ 先っぽが涎垂らしてますよ」

まゆ 「こっちも、綺麗にしてあげますからね」

※後ろから手を伸ばして性器を擦っている

まゆ 「ほら、ごうし、ごうし……ふふ。私の手の中でお兄さんの、ビクビク跳ねてますよ」

まゆ 「ほくら、おとなしく綺麗綺麗、しましょうね」

まゆ 「んっ……洗っても洗っても、先から溢れてきちゃいますね……」

まゆ 「もう、お兄さんは仕方ない人ですね……。そんなだらしないお兄さんのために、こっちも胸で洗ってあげましょうね？」

※前側に移動してパイズリ

SS 足音（浴室内）

立ち位置 正面 顔の下 近く

まゆ 「ん……しよっと、ん……ふふ、私の胸にお兄さんの硬いの
が、ペしペし当たってます」

まゆ 「こんな悪い子は……こうやって、挟んじゃうんですからね」

まゆ 「んん……こら、暴れちゃ駄目ですよ、もう……」

まゆ

「さっきもしたのに、お兄さんのはほんとに元気ですね……」

まゆ

「ほら……お胸でぐっし、ぐっし」

SE パイズリ音

まゆ

「お兄さん、すごく気持ちよさそうな顔してます」

まゆ

「気持ちいいんですね……嬉しいです」

まゆ

「ほら、もっと気持ちよくなってください……」

まゆ

「んっ……先っぽから垂れてきた我慢汁で滑りがよくなってきました」

まゆ

「ん……いっちゃいそうなんですか？」

まゆ

「いいですよ？ 私に……お兄さんの白くて濃いボディソープかけてください……」

まゆ

「ほら、んっ……ぴゅっぴゅって……」

まゆ

「出して……っ」

SE パイズリ音ここまで

SE 射精音（外だし）

まゆ

「……んっ……あっ……」

まゆ

「出てます……っ。お兄さんの熱いボディソープが……」

まゆ

「ん……ふふ。ねっとりとして、すごいにおい……」

まゆ

「こんなボディソープで身体洗っちゃったら……私、我慢できなくなっちゃいます」

まゆ

「お兄さんも……まだ満足できてないですよね？」

「ほら……私のこども、だらしなく涎垂らしちゃってます……」

「お兄さんの太いお掃除棒で、中をごしごし擦って綺麗にしてもらえますか？」

※浴室内バック

立ち位置 正面 後ろ向きで

SE 挿入音

「んあっ……入ってきて、ますっ……あああっ」

SE 抽送音（ここから）

「あん……っ。お、奥、ずんずん突かれちゃってますっ」

「お、お兄さんっ。ああっん。は、激し、過ぎですっ」

「も、もっと優しく、ご、ごしごし、してっ、くださいっ」

「んっ……ああっ、だ、だめっ……こ、こんなの、す、すぐ
イっちゃいます、から……っ」

「あっ……やつ、く、くるっ……き、きちやいますっ……」

SE 抽送音（ここまで）

SE 潮吹き音

「んんっ……ああああああっ……っ？」

「んっ……くう……んん」

SE 性器抜ける音

「……わ、わたしだけ先にイかされちゃいました……」

「ご、ごめんなさい、お兄さん……。お兄さんは、まだ満足で
きてないですね……っ？」

「イったばかりで敏感になってるココ、お兄さんので、ぐちよぐちよになるまで突いてくださいっ」

SE 挿入音

「ああっ……んっ……奥っ、き、気持ち、いいです」

SE 抽送音（ここから）

「んんっ、ああん……っ。うん……ああっ」

「お、お兄さん……んんっ。で、出そうなんですか……な、中で、大きくなって、ますよっ？」

「んっ……い、いいですよ。だ、出してくださいっ……お兄さんの、好きなところに……思いつきり……っ」

「ああっ……き、きます……いつ、いくっ」

SE 抽送音（ここまで）

SE 射精音（中だし）次のセリフと同時に

「んっ。ああっ……んああああっ」

「んっ……くうっ……ふああ、んんっ」

SE ペたって座り込む音

「はあ、はあ……で、出てます……出されちゃってます……」

「っと……す、すみません。お、お兄さんの……凄すぎて、こ、腰が抜けちゃいました……」

「ん……ありがとうございます。お兄さん」

「そ、その……すごく気持ちよかったです」

「……また、しましょうね」

㊦ 扉が開く音（玄関）

立ち位置 正面 後ろ向き ちよつと遠い

「ん。お姉ちゃん、いってらっしゃい」

㊦ 扉が閉まる音（玄関）

立ち位置 正面 ちよつと遠い

「……あ、お兄さん。おはようございます。今日はちよつとだけ遅起きですね」

「はい、お姉ちゃんはまだ出かけちゃいました。……せっかく朝ごはんを用意したのに、食べずに行っちゃいました。お姉ちゃんも大変ですね」

「お兄さんの朝ごはんも用意してありますよ？ お兄さんは食べますよね……？」

「……それとも、朝ごはんの前に……こっちの方を食べちゃいますか？」

㊦ 椅子を引く音

立ち位置 正面 近く

「んっ……ほら、お兄さん、座ってください」

※椅子に座って対面座位

「じゃあ……お兄さんの唇、いただきます……」

「ん……ちゆる。ちゅっ……ぷはっ」

「した、舌だしてください」

「んんっ、じゆる……んむ。」

「れろ……じゆるるっ。ぷはっ」

「お兄さんの唾液……美味しいです」

「私の唾液は……どうでしたか？」

「もっと……唾液の交換しましょう？」

「んむ……じゅむ、ちゅるる……んん」

「じゅるる……んむ。んん。ぷはっ」

「はあ、はあ……お兄さんとキスするの、癖になっちゃいそうです」

「……お兄さん、すごく息遣いが荒くなってますね。それに、こっちも……ほら、はち切れそうになってますよ」

「いいですよ。ケダモノみたいに、私に欲望をぶつけてください」

SE 衣擦れ音

※ヒロインの上の服を脱がせている

「んっ……。こうして、少し乱暴に求められるの、興奮しちゃいます」

立ち位置 正面 頭の上 近く

※ヒロインの胸に主人公の頭がある

「んあっ……ふふ。お兄さん、私のおっぱい、好きですね。」

「ええ、好きなだけ味わっていいんですからね」

「んんっ……ああっ、はあ、んああっ」

「……はあ、はあ。そっちも気になりますか？ 昨日、お兄さんのが入ってたところですよ？」

「ん……ええ。触っていいですよ」

「ああっ……お兄さんの大きな指で触られるの、すごくいい
す」

「じ、自分ですのと全然、違います」

「んあ。お、お兄さん……お兄さあん」

「んああっ。お、おっぱいも、同時になんて」

「んん……こ、こんなことされたら、す、すぐにイカされちゃ
いそうです」

「は、はい。はい……お、お兄さんの手で、イかせてくださ
い」

「んあっ……んん。ああっ。だ、だめっ。い、いくっ」

「ああああ……っ！？」

SE 潮吹き音

「んっ……んんあっ。ん……」

「はあ、はあ……ん」

「す、すごかったです……」

「……ん。だ、大丈夫です。だって、お兄さんはまだ、気持ち
よくなれてませんもんね？」

「だから……ほら、私のここで気持ちよくなってください」

SE 挿入音

立ち位置 正面 近く

「んんあっ……お、お兄さんのが、入ってきます」

「す、少しくらい激しくして、いいですから……ね？」

「私の中、お兄さんのおかげでもう、ぐしょぐしょになっちゃってますから」

「だから、お兄さんの好きに動いて、ください」

SE 抽送音（ここから）

「んっ。あああ。お、奥まで、お兄さんが届いてますっ」

「そ、そこ、よ、弱いのに……お、お兄さんに、もう私の弱点、ばれちゃってます……」

「ああっ。ふあっ……ああん」

「んああっ。……っ。ふう、んんっ」

「き、キスしてください……わ、私、またお兄さんとキスしたいです」

「ちゆる……れろ……んん」

「じゅるる……んっ……れろ……」

「あっ、ああっ……んん。ぷはっ」

「わ、私……ま、また、お兄さんにイカされちゃいそうです」

「お、お兄さんも、イきそうなんですか？ い、いいですよ？」

「い、一緒に、一緒にイきましょう？」

「あっ、ああっ……んん」

まゆ 「い、いく、いくっ……いくうつ」

SE 抽送音（ここまで）

SE 射精音（中だし）次のセリフと同時に

まゆ 「っ……ああああんあゝっ!？」

まゆ 「……んっ。んあ……あっ」

まゆ 「お、お腹の中……お兄さんのいっぱい出されちゃいました」

まゆ 「お腹……たぶたぶです」

立ち位置 左 耳元

※囁くように

まゆ 「……満足できましたか？ お兄さん」

まゆ 「私も……もうお腹いっぱいです」

まゆ 「ふふ。……「ごちそうさまでした。お兄いさん」」

● 4 日目

※乳首なめで起こされる

SE ごそごそと布団の衣擦れ音

立ち位置 正面 頭の下 近い

まゆ 「んっ……ちゅっ……」

まゆ 「……れろっ……ちゅっ、ちゅぱっ」

まゆ 「……ちゅるる……んっ」

立ち位置 正面 近く

まゆ 「……あ、お兄さん。起きちゃいましたか？」

まゆ 「ええ、まだ起きるには早い時間ですね」

「お姉ちゃんも、まだ寝てると思います」

「……どうしてここにいたって？」

「それはですね……お兄さんのこと、夜這いしちゃおうかと思って、きちゃいました」

「ねえ、お兄さん。私と……えっちなこと、しませんか？」

「……ふふ、お兄さんのここは、もう起きちゃってますよ？」

立ち位置 正面 頭の下

※主人公の股のあたりに顔がある感じで

「お兄さんと違って早起きですね」

「ほうら、見せてください」

SE 衣擦れ音（ズボンとパンツをおろす音）

「わあ、ものすごい、いきり立ってますね。ほら、脈打っちゃってますよ？」

「それに……まだ、触れてもないのに、先っぽからお汁が出ちゃってます」

「……触ってほしいですか？ 気持ちよくしてほしいですか？」

「うーん……。ダメです。今日はせっかいですから、お兄さんのオナニー、私に見せてください」

「私も……お兄さんがオナニーできるように、手伝ってあげますね」

SE 衣擦れ音（Tシャツとブラをめくりあげる音）

「んっ……ほら、お兄さんの大好きなおっぱいですよ？」

まゆ

「ん……触っちゃ駄目ですからね？ ほら、見るだけです」

まゆ

「ほら、自分で頑張ってシコシコしてくださいね？」

まゆ

「んっ……男の人ってそうやってオナニーするんですね」

まゆ

「お兄さん、気持ちよさそうな顔してます」

まゆ

「……ん。私も濡れてきちゃいました」

※体勢を変える音

※体勢を主人公のモモのあたりに座るに変えている

立ち位置 正面 頭の下

まゆ

「……ほら、見えますか？ お兄さん。私のとろとろになっちゃってます」

まゆ

「ここに入りたいですか？ でも、ダメですからね？」

まゆ

「ほら、手が止まっちゃってますよ。もっと頑張ってシコシコしてください」

まゆ

「……そんなに入りたいんですか？ ……じゃあ、頑張って射精できたら、今度はこっちを使ってもいいですよ？」

まゆ

「わ……お兄さん、一気に擦る速度が上がりましたね？」

まゆ

「頑張ってシコシコしてる顔、とてもかわいいです」

まゆ

「お兄さんのその顔、好きです。もっとよく見せてくださいっ」

まゆ

「んっ……私も、我慢できなくなってきました……」

まゆ

「ほら、お兄さん、私のオナニー、見えますか？」

「乳首もこんなにコリコリたっちゃってます」

「ココもお兄さんのこんなに奥まで指を飲み込んでます……んっ」

「でも……指だけじゃ切ないです。ほら、お兄さん、早く」

「その太くて大きいので、私のここを塞いで欲しい、です」

「んっ、お、お兄さんっ。も、もうイっちゃいそうなんです
か？ 我慢汁、すごいことになってます」

「……いいですよ。素敵です。お兄さん、ね？ ほら、どこに
かけたいんですか？」

「お兄さんの好きなところにかけていいですよ？」

「……ふふ。ここ、ですか？」

「じゃあ……はい。私の、もう濡れ濡れになったここに、お兄
さんのいっぱいかけてください」

SE 射精音（外だし）

「んっ……すごい。いっぱい出てる……」

「お兄さんの精液の量、すごいから、少し中に入っちゃったか
も」

「もしかしたら、これだけで妊娠しちゃうかもしれないです」

「……安全日かって？ さあ、どうでしょう？」

「もし危険日だったとしたら、ここで止めちゃいますか？」

「……でもお兄さん。私のここに入れたくて頑張ってたんですよね？」

「……さあ、どうしますか？」

SE 挿入音

「んあっ。んっ……ふふ。自分に正直なお兄さん、好きですよ」

「ほら、頑張った分、いっぱい味わっていいですからね？」

SE 抽送音（ここから）

※声を我慢している感じで

「ああっ。んんっ。は、激しい、です」

「んっ、べ、別の部屋で、まだお姉ちゃんが寝てるのに……んあっ」

「こ、声、我慢できなっ……」

「んふっ……ん。い、いいですよ。お兄さんは、え、遠慮しなくてもっ」

「んっく……ほ、ほら、オナニーの時みたいに、思いっきり突いて、いいですからっ」

「お、お兄さんの性欲、ぜ、全部っ、ぶつけて、ください」

「ああっ、ふあああっ。んっ、んんっ」

「ふっ、ああ……ああっ。だ、だめっ」

「こ、こんなの、す、すぐ、イっちゃんあっ」

「だ、だめっ……お、お姉ちゃん、お、起きちゃ……」

「お、おにいさ……ま、また、さっきとおなじ、かおっ、します」

「い、イっちゃいそ、なんです、ねっ。ああっ。い、いーですよ」

「わ、わたしと、い、いっしょ、いっしょに……んああっ」

「ああっ、んん。ああっ」

「い、いくっ、いくいくっ……んっく」

SS 抽送音（ここまで）

SS 射精音（中だし）

「んんんんあああああっっ!?!」

「んっ、はあっ、ん……っ」

「ん……っつ。ま、まだ……イっちゃってます」

立ち位置 正面 近く

※主人公の身体に倒れこむ

「……んふ……っ。はあ、はあ……」

「い、いっぱい、中に出されちゃいました……」

「もう何度も中に出されちゃってますし、ほんとに、お兄さんの子を妊娠しちゃってるかも、しれないですね?」

「……ふふ。さて、どうでしょう?」

「でも、よかったですね。どうやら、お姉ちゃんはまだ寝てるみたいです」

まゆ 「私としては、見られて構わなかったんですけど……ふふ。冗談です」

まゆ 「……まだ、朝まではもう少しだけ時間があります」

まゆ 「それまで、このまま、一緒に寝てもいいですか？」

まゆ 「……ありがとうございます。お兄さん」

まゆ 「……んっ。おやすみなさい。お兄さん」

● 5日目

SE 信号の音など

※外なので交通の音が入ってる感じで

立ち位置 左 顔の下 近い

まゆ 「お兄さん。今日はありがとうございました。お兄さんとのデート、楽しかったです」

まゆ 「ねえ、お兄さん。家に帰る前に、最後にあそこに寄りませんか？」

まゆ 「まだ私……家に帰りたくないです。お兄さんってちなことしたいです」

まゆ 「お兄さんも……したいですよね？」

SE 扉が閉まる音

SE 足音（フローリング）ちょっと駆け足気味で数歩

立ち位置 正面 後ろ向き 少し遠い

まゆ 「私、ラブホに入ったの初めてです。中って、こうなってるんですね」

SE 足音数歩

立ち位置 正面 近く

「ふふ……もう我慢できないんですか？　じゃあいま、楽しんであげますからね？」

※ ベッドがきしむ音

立ち位置　正面　顔の下

※フェラシーン

「お兄さんの……おちんぽ、何度見ても大きいですね」

「今日は、私のお口で気持ちよくしてあげますね……？」

「舌先で……亀頭も、カリ首も、……れろ」

「れろ……れろお。ん、ちゅっ」

「ちゅっ……ちゅっ」

「もう、先っぽから我慢汁、溢れてきちゃってますよ」

「これも、綺麗に舐めとってあげますから……んっ」

「ちゅっ、ん……れろ……」

「ちゅる……ん。れろお」

「ふふ。舐めても舐めても、どんどん溢れてきますよ？」

「もうイっちゃいそうなんですか？」

「でも、ダメですからね？　まだまだ気持ちよくしてあげますから、ちゃんと我慢してくださいね」

「ん……む」

「じゅる……んんっ」

まゆ

「ろーれふか？（どーですか）、おいーはん（お兄さん）」

まゆ

「ひおひよはほーえふ（気持ちよさそーです）」

まゆ

「おっほ、ひへはえはふへ（もっと、してあげますね）」

まゆ

「んじゅる……。じゅるる、じゅぶぶ。んんっ」

まゆ

「じゅる、じゅぶ……。んっ。ぶはっ」

まゆ

「……いいですよ。私のお口にお兄さんの濃いのがたっぷり出してください」

まゆ

「んっ……。じゅるる。じゅるるう」

まゆ

「んん。つく……。じゅぶぶ」

SE 射精音（口内）

まゆ

「んんんっ。ゝゝゝゝっ！ー！」

まゆ

「……つく。んん」

まゆ

「……ぺろっ。ほら、ちゃんと全部飲みましたよ。えーっ」

まゆ

「濃厚でお兄さんの雄の匂いたっぷりの精子、美味しかったです」

まゆ

「……でも、あんなに出したのに、お兄さんの、まだこんなに元気ですね」

まゆ

「私のここに挿入したくてたまらないって感じですか？」

まゆ

「……どうしよかなあ？」

まゆ

「入りたいですか？ お兄さん」

「…………ふふ。冗談ですよ」

「私も、お兄さんに入れてほしいです」

SE ベッドに倒れこむ音

※正常位

まゆ 「ほら……私のこゝ、好きに使ってください」

SE 挿入音

まゆ 「ん、んああっ。お兄さんの。これを、待ってました……」

まゆ 「奥まで、届いて、き、気持ち、いいです」

SE 抽送音（こゝから）

まゆ 「お、お兄さん……き、キスしてください」

まゆ 「んっ……ちゆる。じゆるる」

「れろじゆるる……んんっ。ぷはっ」

「はあ、はあ。お、お兄さんとのキス、好きです……」

まゆ 「お兄さん、もっと、もっとお」

まゆ 「んんう、れろ……んじゆるる」

「じゆるる。んむ……ちゅぷ、っあっ」

まゆ 「んあっ。お、お兄さんのが私の子宮の入り口、ノックし
ちゃってます」

まゆ 「き、気持ち、いいです……ああっ」

まゆ 「お、お兄さ、あああっ。わ、わたし……も、もうっ」

「あっ、ああっ……、だ、出してっ。お、お兄さんの、あ、あ
っいの。い、いっぱい……」

「んっ、ああっ。い、いく……いくうっ」

SE 抽送音（二こまで）

SE 射精音（中だし）

「んあああああああああゝゝっ!？」

「あっ……んっ。はあ、はあ……」

「も、もう、お兄さん、出しすぎです。お腹の中、すごく熱い
……」

「……お兄さん、まだ満足できてないんですか？」

「ほんとに、もう、仕方ないですね……」

※囁くように

「まだ、時間はたっぷりありますから。絶倫のお兄さんが満足
できるまで」

「……私の身体を使って、お兄さんの……搾り取ってあげま
す」

「お兄さんのこと、私じゃないと満足できない身体に、してあ
げますから……ねっ」

● 6 日目

SE 扉をノックする音

※扉越しの声

立ち位置 正面 少し遠め

「どっぞ」

SE 扉を開ける音（主人公の部屋）

まゆ

「お兄さん？　どうかしたんですか？」

まゆ

「ああ、これですか？　……明日の夕方には家に帰らないといけないので、今のうちに荷物を整理しておこうかと」

立ち位置 右

まゆ

「手伝いは大丈夫ですよ。えっとその……下着とか着替えもあるんで、ちょっと恥ずかしいですし」

まゆ

「……お兄さん。駄目ですよ？　今はお姉ちゃんが居間にいるんですから」

立ち位置 右 近い

※我慢するように

まゆ

「んっ……駄目ですって……お、お兄さ……んんっ」

まゆ

「お、お姉ちゃんに聞こえちゃいます、から……っ」

まゆ

「……ああっ。だ、駄目っ。ち、乳首をつねるの反則です。そ、そこ、弱いんですから」

まゆ

「……もうっ。仕方のないお兄さんですね」

まゆ

「ほら、お兄さん、横になってください」

まゆ

「今日は私が上になりますから」

まゆ

「お兄さんを自由にさせると、声が我慢できなくなっちゃいますからね……」

※囁くように

まゆ

「……だから、代わりにお兄さんのこと、いっぱいいっぱい弄って気持ちよくしてあげますね？」

※ 衣擦れ音（ズボンと下着を脱がす音）

立ち位置 正面 顔の下

「んっ……お兄さん、もうこんなに大きくして」

「いま、入れてあげますから、ね……んんあ」

SE 挿入音

「……ほら、お兄さんの逞しいの、全部飲み込んだじゃいましたよ?」

「どうですか? 私の中、気持ちいいですか?」

「ほら、動いちゃ駄目ですからね……ゆっくり、ゆーっくり、気持ちよくしてあげます」

SE 抽送音ゆっくり(ここから)

立ち位置 右 耳元

※次のセリフ囁き

「ふふ。お兄さんも、ここ、弱いんですね? 乳首を弄るとピクって反応してますよ」

立ち位置 正面 顔の下 近い

「……ん。ちゅっ。れろ……」

立ち位置 右 耳元

※囁き

「……ほら、乳首も勃起しちゃいましたよ?」

「……どうしたんですか? 耳元で囁かれるのが良いんですか?」

「また、お兄さんの弱点、一つ見つけちゃいました」

「じゃあ、こっちもいっぱい舐めてあげますね……」

※囁きここまで

※耳舐め

「んちゅ……れろ。じゅるる」

「れろ……んん。ちゅぱ……」

立ち位置 正面 近く

「お兄さんの我慢汁で私の中ぐちよぐちよになってますよ？」

「ほら、私の愛液と混ざって、動かすと卑猥な音が出ちゃってます」

「でも駄目ですからね？ 今日最後まで私がしてあげますから」

「お兄さんはそのまま動かず、私にされるがまま、白いのぴゅーぴゅーするまで……ゆっくりと可愛がってあげますからね？」

※我慢するように

「んっ……あぁっ。お兄さんのが気持ちいいところに当たって、私も、気持ちいいです」

「はぁ、はぁ。お兄さん、ほら……舌を出してください」

「れろおお……」

「私の唾液、おいしいですか……？ ふふ、もっと飲みたい、ですか？」

「わ、私も、お兄さんの飲ませて欲しいです」

「お兄さんの舌で私のお口の中、いっぱい犯して欲しいです」

「んんちゅる……じゅるる。っぷ」

「ちゆるる……じゅぶ、んんむ、んっ」

「……っは」

SE 抽送音（二こまで）

「はあ、はあ……ふふ。お兄さん、いま、少しイっちゃいそうでしたね？」

「でも、駄目ですからね……？ 私が良いって言うまで、頑張って耐えてください」

「……我慢できない？ ですか。仕方ないお兄さんですね」

「……でも、いいですよ。私もそろそろイっちゃいそうですし……」

SE 抽送音（二こから）

「ほら、お兄さんが我慢して溜めてた精子、全部私の中に出させてあげますね」

「……んんっ。あん」

「……っ。ふうっ……はあ、はあ」

「わ、私も……もう」

「んっ。はい……もう我慢しなくて大丈夫ですから」

「いっぱい、いっぱい、出してください」

「んっ。あああっ」

SE 抽送音（二こまで）

SE 射精音（中だし）

※次のセリフ我慢する感じで

「ん
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
っ
っ
っ
!」
?」

「……んあつ。……んん」

「はあ、はあ……」

「お腹の中、熱い……」

「お兄さんので、子宮の中……満たされちゃってます」

「お兄さんも満足できましたか……？」

「ふふ。よかったです」

「じゃあ、その……お姉ちゃんに気付かれる前に、後始末をしなきゃ、ですね」

「ほら、お兄さんも手伝ってください」

● 7 日目

立ち位置 正面 後ろ向き 少し遠い

「うん……うん。駅に着いたらまた連絡するから」

「……分かったから。じゃあ、またあとでね」

立ち位置 正面 少し遠い

「……あ、お兄さん。聞いてたんですか？」

「はい。お父さんとお母さんからでした」

「駅まで迎えに来てくれるそうです」

立ち位置 正面

「……一週間、あつという間でしたね」

まゆ

「……はい。この一週間、とても楽しかったです」

まゆ

「……でも、大好きなお兄さんと離れるのは少し辛いです」

立ち位置 正面 近い

まゆ

「ねえ、お兄さん。まだ、時間がありますから……その」

まゆ

「最後に、もう一つだけ、お兄さんとの思い出を作っても、いいですか？」

SE ベッドがきしむ音

立ち位置 正面 左耳に顔だけ近づける

※主人公に抱き着いて頭が主人公の肩にあるイメージ

まゆ

「んんっ……もう私の中、お兄さんの形、覚えちゃいました」

※囁き

まゆ

「ほら、分かりますか？ お兄さんの欲しくて、もう私の中、きゅんきゅんしちゃってるの」

まゆ

「ほら……お兄さんも遠慮しないで、好きなだけ私の奥を突いてください」

※囁き「こまで」

SE 抽送音（「こ」から）

まゆ

「んあっ。……ああっ。い、いいです。お兄さんの、ああっ」

まゆ

「ふああっ。は、はげしっ……んうあああっ」

立ち位置 正面 近く

まゆ

「お、おにいきっ、きっ、キス、キスっ」

まゆ

「んんむ……ちゅるう。んんじゅるる」

まゆ

「んんじゅ……ちゅるる。れろ……ふあはっ」

「す、すき、です……お兄さんっ、お兄さんっ」

「もっと……もっと、してください」

「んちゆるる……じゆるうつ、んん」

「じゆるるる……じゅぶ、んぷはっ」

「おにい、さん。おにいさあん……」

立ち位置 正面 顔の下 近く

「……んっ……ちゅううつう……ぷはっ」

「……はあ、はあ。んん。……ふふ。キスマーク、んっ。っ、つけちゃいました……」

「これ、お姉ちゃんに、見られちゃったら、んああっ。た、大変ですね……」

「で、でも、今だけは……ああんっ。お、お姉ちゃんのこと、忘れて、私だけのものに、なってください」

「んああっ。ま、また、お兄さんの、中で大きく、なりましたよ?」

「う、うれし……んああっ。も、もっと、もっと激しく、して、くださいっ」

「い、いいんです、よっ。……おにいさんの、ことっ、んん。忘れ、られなくなる、くらいに」

「私の中につ、お兄さんのものだって、ああっ。し、印をくださいっ」

「だ、出してっ。お兄さんのっ、白いの、いっぱい……っ」

SE 抽送音（ここまで）

SE 射精音（中だし）

「んんっ、ああっ。あああああっ！？」

「はあ、はあ……あん。んん……んっ」

「出てます……お兄さんの精液……ん」

「好き……お兄さん」

「んっ……ま、まだ抜いちゃ駄目です……」

立ち位置 正面 左耳に顔だけ近づける

※次のセリフ囁き

「ね、お兄さん……まだ、できますよね？」

「ほら、お兄さんの……私の中で、出し足りないって、ぴくぴくしてます」

「だから……ね？ お兄さんの全部、出し切るまで……」

※次のセリフ囁き

「最後の最後の一滴まで……私に注いでください」

「……は、はいっ。お兄さんの好きなように、私のこと、めちゃくちゃにしてください」

SE 抽送音ぐちゅ音強め（ここから）

「んあっ……あああっ。んん……はあ、はっ」

「んっ。ふああっ……ま、まるで、ケモノみたいに、んああっ。……わ、私たち、えっちしちゃって、ます」

「き、聞こえます、か？ ほ、ほら、ぐちゅぐちゅって……んんっ」

「お兄さんの精液と、私の愛液が混ざって、こ、こんなに、卑猥な音、立ててますよ？」

「はあ、はあ……んんあああつ。ふああつ……」

「わ、分かりますか……？ わ、私、さっきから気持ちよすぎて、何度もイっちゃってます……」

「お兄さんの、気持ちよすぎて……んんっ。お、おかしくなっちゃいそうです」

「お、お兄さんですか？ ふふ、よ、よかった、です」

「こ、このまま……あああつ。ふ、二人で、おかしくなりましょう？」

「んああ……ああつ……んんんっ」

「はうあつ……ふああん、んっく」

「んんっ。あああ……ま、またっ、き、きちや……んんっ」

「んあああつ、あつ、やつ……あああつ」

「お、おに、いしゃん……おにい、さんっ」

「きてっ、だしてっ……」

SE 抽送音（二二」まで）

「ふあああああ、ああああんっ……！」

「はっ……んんあつ……んんっ。……あああつ」

「はあ、はあ……んんっ……溢れてきちゃう」

まゆ

「お腹の中、入り切らない、です……」

まゆ

「……でも、あったかい。お兄さん、ありがとうございました」

まゆ

「大好きです……ちゅっ」

立ち位置 正面

※ 荷物（鞆）を持つ音

まゆ

「よいしょっと。……じゃあ、私はそろそろ帰りますね。あまりに遅いとお父さんに心配されてしまうので」

まゆ

「……見送りは大丈夫です。されると離れるのが辛くなっちゃいますから」

まゆ

「じゃあ、その……お姉ちゃんのこと、よろしくお願いしますね」

まゆ

「…………お兄さん。……えっと、また長期休みに入ったら遊びに来てもいいですか？」

まゆ

「……よかった。……じゃあ、その時まで、少しのお別れです」

まゆ

「忘れないでくださいね。私も、大好きなお兄さんのこと、忘れませんから」

立ち位置 正面 後ろ向き

まゆ

「……では、またです。お兄さん」

まゆ

「………」

※ かけよる音（フローリング廊下）

立ち位置 正面 近く

まゆ

「……お兄さんっ。……んっ。ちゅっ」

まゆ

立ち位置 正面 どちらかの耳に顔をよせて
※次のセリフ囁き

「ん……その時になったら、またしましょうね？ 約束ですか
らね。お兄さんっ」
